

## 関西地区本部第39回定期大会開催



挨拶する関西地区本部福本委員長

9月2日(土) 広島市内において開催しました。

執行部を代表し挨拶に立った福本委員長は、「コロナが終わっても会社の経営状況は厳しい。何が問題なのか。営業活動はしっかり行っているのか。2024問題はすぐそこまできており、経営状況回復に向け労使を上げて取り組んでいく。つい先日、西日本グループ会社で感電死亡労災があった。安全に終わりはない。組合員一人一人が安全意識をもって作業してもらいたい。組織課題では、関西地区において停滞感が否めない。私たちに出来ることは何なのか。今一度、考えてもらいたい。政策課題では、2024問題・アポルール改定・札幌新幹線延伸・鉄道強靱化がある。中国地区は毎年のように鉄道設備に被害が出ており、荷主からの信用を失わないためにも鉄道強靱化を早急に進めていく必要がある。今後、2023年末手当交渉・2024春闘に入っていく。物価上昇等により、私たちの生活は疲弊している。2023春闘ではベアを獲得したが、改善にはもっと多くの賃金改善が必要であり本部と共に闘っていきたい」と述べられ、来賓挨拶では、辻村本部委員長より、会社の経営状況の他、安全・組織・政策・政治・労働条件におけるそれぞれの課題を述べられました。

その後、埴岡書記長より今後の活動運動方針(案)が提起され、質疑応答では、COOP 共済移転・労働条件・組合費改定・政策課題・退職年齢延長等の質疑が出され、執行部が集約し、最後に、福本委員長による団結ガンパローで定期大会を終了しました。